令和6年度
自己評価報告書

令和7年3月31日

学校法人 城西学園
城西放射線技術専門学校

- ・学則第4条に基づき自らの運営状況について自己点検・評価を実施した。
本校の教育活動の状況を自ら点検・評価し改善点を今後の教育活動に活かすことを目的とし、毎年実施するものとする。
- ・評価の結果、改善を要する項目は学校長の改善指示のもと担当者は速やかに対応し、改善状況を学校長へ報告するものとする。
- ・評価は、「専修学校における学校評価ガイドライン」を基に4段階評価（4：大変良い 3：良い 2：あまり良くない 1：良くない）とした。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

本校は現在地にて昭和 35 年 4 月 1 日付、城西レントゲン技術専門学校として発足

昭和 46 年 4 月 1 日付、城西放射線技術専門学校と名称変更

昭和 51 年 6 月 1 日付、私立専修学校として認可

診療放射線学科のみの夜間課程単科校であり、修業年限は 4 年である。診療放射線技師養成校として現代医療に求められる知識と技術の習得、信頼される人間性を養うということを教育の柱としている。

(1)入学時から一貫して国家資格取得が教育目標。

(2)城西学園校訓に「報恩感謝」を掲げており、恩や恵みに対して感謝の気持ちを持つことをいう。

これまでに受けた恩や恵みに感謝し病んだ人を思いやり医療人として恩に報いる、奉仕の精神を持つ医療人の育成教育を目標としている。

(3)本校の入学受入れ方針は以下の通りである。

- ・ 専門学校で学ぶことに対して確かな目的意識を持ち、学ぶ姿勢を大切にする方
- ・ 社会人としての自覚を持ち、職場や学校での言動、身だしなみについて礼儀や常識を心得ている方
また、そのことについて学ぶ姿勢を持つ方
- ・ 心身ともに健康な方で、公私に関わらず、他者への思いやりを持っている方
- ・ 医療の現場はチーム医療が重要であり、コミュニケーション能力・連帯感を常に意識している方
- ・ 医療および医療技術に関心を持ち、適正があると考えている方

(4)職業教育を行う上では、病院等と連携した授業・実習が不可欠である。

学内における授業に加えて、学外での関連企業の工場見学、病院見学等を通じて専門性を養い、早い段階から医療現場における診療放射線技師の在り方を考える機会を与えている。

【課題・改善策】

・ 単科校である本校は開学以来、国家試験合格という明確な目標を掲げている。

診療放射線技師に求められるニーズの拡大に伴い、医療現場の意見を反映した人材育成に努める。

・ 昼間に病院など医療機関で働けることがメリットだったが、近年は病院以外のアルバイトをする学生や修学支援新制度などで働くことで世帯収入が増えて授業料減免から外れないように調整する学生など世の中の情勢に合わせて本校の在り方も変わって来ている。社会情勢の変化とともに、指針の見直しが必要。

	評価項目	評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められている	4
2	教育理念・教育目標・育成人材像は専門分野におけるニーズに伴っているか	3
3	理念達成に向けた教育活動を行っている	3
4	教育理念・教育目標が周知されている	3

基準2 学校運営

- (1) 原則、隔週実施される全員参加の職員会議では教職員が議題を発案・内容発表。会議後は議事録を作成し、次回会議の冒頭で前回の議事録の実施状況確認している。
また、この会議には校長（兼理事長）も参加しているため、学園での事項について共通認識を持つ機会を設ける機会にもなっている。
- (2) 城西学園理事会・評議委員会において本校の職員は評議員・事務局として出席し、事業計画や運営方針などの決定事項を職員会議にて報告し、教職員全員へ周知徹底している。
- (3) 期初に教務部、事務部の「業務分担表」を作成して担任・副担任ならびに学校行事を含めた担当を明確化し、学生指導に向けて各人が責任を持って取り組むようにしている。
- (4) 学校法人 城西学園（中学・高等学校、専門学校）として規程や運営については連携をとっており、教職員がクラウドシステム利用により情報の共有化を図っている。

【課題・改善策】

- ・事業計画を進めるにあたり、法人として取り組むことが効率的な場合もあり、他部署と連携が必要。
- ・規程集は閲覧可能だが、教職員への周知が徹底されていないため閲覧方法など検討する。
- ・学内においては少人数のため会議などを通じて意思疎通が取りやすいが、法人として同じように取り組んでいく中学・高校においてはお互いの事情もわからないため、円滑だとは言えない。

	評価項目	評価
1	目的に合った運営方針が策定されている	3
2	運営方針に沿った事業計画が策定されている	3
3	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され、有効に機能している	3
4	人事、給与に関する規定等は整備されている	3
5	組織整備など意思決定システムが整備されている	2
6	教育活動に関する情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っている	3

基準3 教育活動

目標の設定

- (1) 本校のカリキュラムは教育課程に則り、国家試験合格に向け十分な内容で体系的に構成されている。各科目の教育目標はシラバスに明記し、授業初日に学生へ改めて周知している。
- (2) 学生より専任教員・非常勤講師の授業評価のアンケートを無記名で実施し、教育の質を高めている。その結果をフィードバックし各教員には授業の改善点等の提出を依頼。学生の意見を考慮した授業改善に活用している。
- (3) 成績評価・単位認定の基準は「学生便覧」に記載しており、入学時のガイダンスにて周知している。また、進級判定・卒業判定は、教職員全員が参加し、進級判定会議・卒業判定会議にて規定に基づき行われている。
- (4) 本校にて編集した実力・模擬・総合試験問題集を全教員、3・4年生に配布し、授業と自習に役立てている。
- (5) 診療放射線学科のみの単科校である本校は少人数のため、教員間で授業の進捗状況や方法について日常的に話し合われており、職員も含めて改善についての意見交換をしている。
- (6) 実習前研修として、外部講師を招いて病院での接遇や社会マナーを学ぶ機会を設けている。

【課題・改善策】

- ・新カリキュラムでの病院実習がスタートしたため、実習先との連携をより密に行い、本校の教育目標や指導について理解と協力を依頼していく。
- ・教員の学会や勉強会への参加を奨励しているが、業務との折り合いで参加が難しいケースもあるため、参加しやすい環境を作り、授業へ還元できるよう努める。
- ・養成所指導調査の指摘により、欠席過多者、仮進級者の対応を明確にした。学生の意欲と学力の向上に繋がるよう指導していく。

	評価項目	評価
1	理念・目的に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めている	3
2	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3
3	授業評価の実施・評価体制は整っているか	3
4	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確か	3
5	資格取得に関する指導体制は確立されているか	3
6	教員の資質、指導能力向上のための取り組みが行われているか	2

基準 4 学修成果

- (1) 昼間に医療機関でアルバイトに従事している者も多く、病院実習の際には患者接遇や病院内での対応について評価されるケースも多い。
現場で得られた知識が授業にも活かせること、卒業後にアルバイト先に就職する者など働くことがプラスになることもあるため、勉強の妨げにならない程度に医療機関へのアルバイトを紹介している。
- (2) 入学者全員が国家試験に合格することが開校以来の目標。退学に繋がる理由は担任がヒヤリングし、解決に努めている。退学者の前兆として欠席が多く、担任からの連絡にも応じなくなる。無断欠席や欠席過多の者は担任が保証人と連携し、本人の学習意欲と継続の意思確認を行っている。
- (3) 臨床実習施設へ訪問の際に情報交換を行っているほか、同窓会ネットワークを活用し、就職希望者には決定まで就職支援を行っている。また、卒業後に離職した卒業生に対しても同様の支援をしている。
- (4) 就職活動、病院実習の実習前研修としてマナー研修を行っている。

【改善策】

- ・退学に至る理由として学力や経済的問題以外にも出産や進路変更など、様々。前向きな退学ではない場合は情報を共有して教職員全員でサポートをしていく。
- ・資格取得のために補講や夏期、冬期に勉強習慣を続けられるよう登校日を設けるなど対策を講じているが、合格率向上には至っていない。物価高や仕送り金額減により労働時間を優先している学生もいるため、成績優秀者に対して授業料減免など学校として対策できることはないか検討する。

	評価項目	評価
1	就職率の向上が図られている	3
2	資格取得率の向上が図られている	2
3	退学率の軽減が図られている	3
4	卒業生・在校生の社会的な活動や評価を把握している	2

基準 5 学生支援

- (1) 就職等進路についても、国家資格の取得が大前提であり、取得しない場合は内定が取り消されるため、就職責任者だけでなく担当教員と連携し、成績と就職活動について個別指導をしている。
卒業後も在校生と同様に就職支援を行っており、転職希望の学生の相談にも応じている。
- (2) 精神面で支障をきたして退学になるケースも多いため、欠席過多者や留年生は心理カウンセラーによるカウンセリングを提案実施し、精神面でのサポートにあたっている。
カウンセリングは希望者や教職員も同様に受けられ、健康維持にも役立てられている。
- (3) 学校生活の状況を把握してもらうため前・後期試験終了後、保証人宛に「定期試験成績表」（科目毎の点数と単位取得の可否）を送付し、学生サポートの協力を仰いでいる。
- (4) 教員のメールアドレスを公開し、授業の質問や個別相談する際に役立てられている。
- (5) 社会人を経て入学する学生は学習にブランクのある者も多い。事前学習の課題としてオンラインで行う自主学習 e-ラーニング（1年間利用可）を設け、学習計画表と共に事前学習・自己学習の場を提

供している。入学前から質問はメールや電話で受け付けており、理数科目が苦手な学生にも活用されている。

(6) 学校独自の奨学制度はないが、授業料の延納など支払いを期日までに出来ない学生については相談に応じた金額の分納払いを提案するなど、柔軟に対応している。

これらの情報は担任とも連携をしており、経済的問題が学生生活に無理をしていないか面談等で確認している。

【課題・改善策】

- ・ 年齢の高い学生に対して保証人は名ばかりとなっている。学生の大半は自己責任で問題ないが、一部保護者の協力が必要な成人学生についての対応について、検討する。
- ・ 学生は入学時に健康管理カードを提出し、教員が面談時にヒヤリングし問題がないか確認している。この件は必要な教員にのみ報告され、守秘義務を守っているが、精神面で問題のある学生の情報をどこまで開示するか。

	評価項目	評価
1	進路指導に関する体制が整備されているか	3
2	学生生活に関して相談できる環境は整備されているか	3
3	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
4	学生の経済的な支援体制はあるか	2
5	保護者と適切に連携しているか	2
6	卒業生への支援体制はあるか	2
7	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3

基準 6 教育環境

- (1) 設備や清掃等のメンテナンスを定期的実施。機器の管理補修も適宜に行われている。
校舎はすべてバリアフリーでエレベーターを完備。休憩所には電子レンジがあり、働きながら学ぶ学生に役立てられている。
- (2) 法令で定められている病院実習は、各施設の担当教員が事前に受け入れ先と十分な協議をし、実習調整担当教員が全体を管理している。また、1年次には診療放射線技師の業務を見学するため病院見学を実施している。
- (3) 「学校法人城西学園 消防計画」を作成し、消防設備等についても、法定点検を実施。学内に設置している自動販売機は緊急時飲料提供自動販売機であり、非常災害時に対応可能。災害時には防火・防災管理者の資格を取得した職員が対応する。
- (4) 図書室には専門書ならびに学術雑誌を備えている。閲覧室は午前10時より解放し、自習をする学生に役立てられている。
- (5) 病院実習先は平成28年に10施設追加し実習後に授業を受ける夜間課程の学生にとって実習と通学の利便性を図っている。
- (6) コロナ渦で中止されていた病院見学を再開し、新入生が診療放射線技師の仕事内容ならびに病院での勤務についてイメージを持つことでモチベーションに繋がっている。
- (7) 姉妹校の日本医療科学大学と合同で臨床実習連絡会を実施しており、カリキュラム変更や実習指導など意見交換を行っている。

【課題・改善策】

- ・校舎建築から12年を経過し、設備の不具合や修理が必要な箇所が出ている。
早急に対応が必要なケースを除いては、計画的に対応していく。
- ・診療放射線技師法改正により、実習期間が延びたため実習先への負担も重くなっている。
変更後初年度は大きな問題はなかったが、今後はより病院担当者と密に連携を取り、明確な目標や方針を明示し、学生指導へ協力を依頼する。
- ・病院実習においてハラスメントが問題となった。学生、教職員以外にもハラスメントについての認識を持ってもらえるよう、臨床実習連絡会にて講義を行うなど、今後も指導者会議や実習担当者によって問題視してもらえるように努める。

	評価項目	評価
1	施設・設備は教育上、十分に対応出来るよう整備されているか	3
2	学外の実習やインターンシップについて十分な教育体制が整備されているか	3
3	防災に対する体制は整備されているか	3

基準7 学生の募集と受け入れ

- (1) 夜間課程の本校は社会人から入学する学生も多いが、その募集活動は難しい。社会人から入学した学生の中には医療機関で本校の卒業生と働いている人も多いため、知人に勧められる学校であり続ける教育をすることも必要とされる。
- (2) 学校説明会実施後は教職員・学生説明員が改善点などを報告書に記載し、改善に努めている。
- (3) 入試の選考においてはアドミッションポリシーを募集要項に記載、規定を基に公正に実施している
- (4) 前後期の単位認定試験の結果は保証人へ送付され、成績不振者や欠席過多者などは改善するための協力を依頼している。
- (5) オンラインでも説明会を引き続き開催。マイクを通じて質問が交わされるなど対面とは違った利点があるため、継続して行っていく。

【課題・改善策】

- ・18歳人口の減少と大学志向の影響で学生募集は苦戦している。夜間課程のため社会人を経て入学する者も多く広報は難しい。
- ・医療系の有資格者の入学が例年あり、医療従事者に支持される学校であることが募集に繋がることもあるため現場から評価されるような学校であるべく教育に取り組んでいく。
- ・学納金は他と比べて妥当ではあるが、成績優秀者や親族入学などの特権が他校と比較し不足している。今後、学校として実施できることを検討する。
- ・以前は昼間に働き保護者の経済的負担を減らそうという入学者が多かったが、高等教育等の修学支援新制度の導入により、経済的な問題が以前より少なくなった。本校の特徴でもある昼間の時間を働ける、ということのメリットを感じない学生も増えたように感じる。

	評価項目	評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	教育成果の情報提供は正確に伝えられているか	3
3	入学選考は、公正かつ公平な基準により行われている	3
4	学納金は妥当なものとなっている	3

基準 8 財務

- 1) 借入金はなく、中長期的に見て財務基盤は安定している。
- 2) 財務については年に数回行われる会計監査、学校法人で監事による監査も行い適切な対応をしている。
- 3) 授業料に関する規定の遵守は基本だが、学生個人の状況を考慮し担任とも連携を取った上で柔軟に対応している。学納金の未納はない。

【課題・改善策】

- ・ 建築して 10 余年、校舎のメンテナンスも必要となるため、計画性を持って行う。
- ・ 安定した財務状況には安定した学生数が不可欠。そのためには、入学した学生が合格して卒業するまでしっかりとサポートしていく。

	評価項目	評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	3
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
3	財務について、会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3

基準 9 法令等の遵守

- 1) 関係法令及び設置基準等を遵守し、関係省庁の指導のもとに適切に学校運営されている。関係省庁からの通知、通達等の内容を学内で共有し、改善が必要なものについては迅速に対応している。
- 2) 個人情報の利用について目的を定め、入学時に取り扱いについての同意書を取っている。この内容については教職員にも周知され、遵守を心掛けている。資料請求者、学校説明会・体験入学者等の個人情報は目的以外には一切使用していない。
- 3) 学内で使用するパソコンに対して情報流出保護システムを導入している。
- 4) 自己点検・自己評価は年に 1 度行われているほか、全教職員が参加する職員会議で問題提起をして対応して情報共有している。
- 5) SNS 利用に際して責任が伴うことを入学時と実習前に指導している。
- 6) ハラスメントに関して規程を設け、相談があった際は内密に対応している。

【課題・改善策】

- ・ 個人情報については許容範囲が個人で異なり、卒業アルバムの写真掲載を望まない学生もいる。事前に説明と理解を求めていく必要がある。

- ・自己点検で明らかになった問題点の改善には時間を要するものもあるため、継続的に取り組み職員会議などで進捗状況を把握していく。

	評価項目	評価
1	法令、設置基準を遵守し、適正な運営がされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
3	自己点検・自己評価の実施と問題の改善に努めているか	3
4	自己点検・自己評価の結果を公開しているか	4

基準 10 社会貢献・地域貢献

- (1) 城西中学・高等学校の文化祭（しいの木祭）実施時に、本校も医療機器の見学・体験実施、骨密度測定などを通じて地域住民と交流を図っており、好評を得ている。
- (2) 夜間校である本校は昼間に働いている学生が多く、社員としてフルタイムで働く学生もいるため、ほとんどの学生は地域ボランティアに充てられる時間自体が取れない。
- (3) 学校に届くボランティア募集などは掲示しており、参加を推奨している。

【課題・改善策】

- ・しいの木祭などで在校生が説明員として参加することで、地域貢献しているが、学業ならびに生活のための仕事に加えてボランティアや地域貢献を行う余裕がないのが現状。

	評価項目	評価
1	学生の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	1
3	地域活動に積極的な参加をしているか	1